

お父さん、お母さんへ

悩んだ時、困った時は、いつも私の背中を押してくれるお父さん、お母さん。ふだんは照れくさくて、素直に言うことができないけれど、二人に心から感謝しています。

小学校生活で、私は運動会が一番嫌いでした。足が遅くて、練習もいつもビリ。雨が降って、そのままなくなってくれたらいいなと思っていました。大活躍なんて夢だと、お父さんもお母さんもきっと気づいていたでしょう。でも、二人は私のために朝早くから場所取りをしたり、好きな物がたくさん入っているお弁当を作ったりしてくれました。一番嫌いだった徒競走。理由は、順位がはっきりわかるから。でも、走り出した私の耳に届きました。

「がんばれ、陽子。」「がんばれー。」

たくさんの方がいてもはっきり聞こえる二人の声。声援のおかげで、最後まで全力で走ることができました。終わったあとも、本当に良く頑張った、えらかったとほめてくれたから、あきらめずに取り組むことの素晴らしさに気付きました。

これから中学生になって、また苦手なことがあるかもしれませんが、でもどんなことにも向かっていけます。私の背中を押してくれる優しいお父さん、お母さん。本当にどうもありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。 陽子より

お父さん、お母さんへ

悩んだ時、困った時は、いつも私の背中を押してくれるお父さん、お母さん。ふだんは照れくさくて、素直に言うことができないけれど、二人に心から感謝しています。

仕事がどんなに忙しくても、家族のために時間をつくってくれるお父さん。冬休みには、必ずスキーに連れて行ってくれました。なかなか上手に滑ることができない私に、声をかけ、根気強く付き合ってくれたおかげで、学校のスキー授業で困ることはありませんでした。

なんでも相談できるお母さん。友達とけんかした時、学校で嫌なことがあった時、私の話を真剣に聞いてくれました。

「何があっても陽子の味方だからね。」

その一言で安心できたし、つらいことがあってもがんばろうと思う気持ちが変わりました。

これから、どんなに苦手なことがあっても途中であきらめず、最後まで向かっていこうと思います。つらくてくじけそうなときは、応援してくれるお父さんとお母さんのことを思い出して、前に進んでいきます。私にたくさんの愛情を注いでくれてありがとう。これからもよろしくお願いします。

陽子より

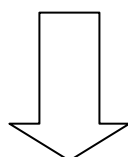
めんどうだと思いがちでも決まっちゃった。たスマイルリーダー。私は、知らない人と接するのが苦手だ。だから、スマイルタイムは嫌いだ。た。まして、リーダーなんて、できるわけがない。六月十三日、初めてスマイルリーダーとして活動した。私は四年一組チーム。まるで、学習発表会でセリフを言うときのように胸が高鳴って緊張しながら、会議に参加した。ゲームは「絵しりとり」。小グループで競争して遊ぶ。リーダー会議で決める内容がすべて決まったあと、実際に試してみることになった。みんなとても楽しんでゲームをして、初めてのリーダー会議はうまくいった。六月二十一日、スマイルタイム当日。一年生から六年生まで笑顔があふれていた。帰り際に先生からこう言われた。「さすが、六年生だね。」そのときに私は気がついた。今までのスマイルタイムも、六年生がしかり計画を立て、司会をしてきたことに。だからこそ、みんなが笑顔でいられるのだろう。次は、私が頑張る番なのだ。みんなが楽しめる時間になるように、事前の準備は忘れず取り組み、お手本となれるリーダーになりたい。初めはめんどうだと思っていた気持ちだが、みんなの笑顔を見ているうちに消えてしまった。これから、自分の役割に責任をもつて行動できる自分を目指したい。

構成
初め
中
終わり

会話を入れたり、表現止めや比喩などを入れたり、よりよい表現を目指して取り組みました。

「良い案なんだから、きこってあげようよ」となりの女子が言うた。でもぼくは、緊張してしまっ、て、手を挙げて発表することができなかった。しかし、その現実を変える出来事があった。それは、「学年集会」だ。ぼくは、学年集会プロジェクトの一員として、学年みんなが楽しめるゲームを企画して、進行することになった。同じクラス仲間との話し合いでは、他の五人と意見を合、つ、方。少しでも良い集会を目指して、たくさん意見を話し合ううちに、自分の考えを出すのになれてきた。「意見を出すのは緊張するけど、言、た時の達成感はずいぶんいい。心の中でそう思った。借り物競走をすることに決まり、ルール作りや、当日必要物の準備に、毎日取り組んだ。話し合い、まして、体育館で当日の動きを確認することに決めた。本番が楽しみだ。学年集会の本番。ぼくは、スタートの合図を出す係だ。た。ホイッスルを鳴らすと、全員が楽しそうに駆け出し、いく。笑顔でゲームをする姿を見て、ワクワクして良かった。とバカから思った。お礼を言われたとき、ぼくたちが話し合ったこと、自信がもてた、自分の意見を言うことの大切さを実感したこと、手を挙げられるようになった、これからは、失敗をおそれず、意見を伝えられる自分を目指していきたい。

一生残るものだから、間違えないように繰り返し推敲も行いました。



表現の工夫
推敲の力